

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0193600376号		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム和花 Aユニット		
所在地	北海道白老郡白老町東町2丁目4番12号		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年8月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600376-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴や買い物、外食など様々な希望に対して速やかに対応し、利用者様一人ひとりがご自分のペースで生活ができるように取り組んでいる。また、趣味や経験を活かした生活ができるよう、絵手紙教室の先生に毎月来設していただいたりしている。すべての居室にトイレが設置されており、夜間帯のトイレ通いがスムーズに行えるようになっている。居室にトイレがあることで安心感が生まれ安眠できる効果もある。高齢者複合施設となっており、1階には機能訓練室があり、充実した機能訓練を行えるようになっている。また、毎週専門職による音楽療法や体操も実施しており、認知機能、身体機能の低下予防に対する取り組みも充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 和花」は幹線道路に面した商店が立ち並ぶ町の中心部に位置し、バス停や白老駅からも近い。医療法人が白老高齢者複合施設として開設して4年を迎える2ユニットの事業所である。5階建ての2階にホームの住まいがあり、住環境は屋内外とも広々としている。敷地内の日本庭園をゆったり散歩したり、バーベキューコーナーが設けられている場所、焼肉なども楽しんでいる。2階の屋外庭園でお茶や流しソーメンを楽しんだり、1階の法人施設を利用し、午後の時間帯にはカラオケ室や機能訓練室を利用者も活用できるように十分な環境を提供している。管理者と職員は理念を意識して熱心に日々取り組んでいる。法人研修など内外の研修で学びを深め、担当職員が3か月毎にモニタリングを行い会議で評価し個別の想いに沿った介護計画を作成している。会話や生活歴から興味を引き出して可能な限り対応し、理念の2項目にある、「趣味」や「嗜好」を楽しみ、笑顔のある暮らしが出来るように機会づくりを計画的に行っている。毎月先生の来訪による絵手紙教室や毎週法人の専門職が来訪し、音楽療法や体操を楽しみながら健康の維持を図り自立に向けて支えている。趣味の麻雀、花札遊び、カラオケ、好きなお酒をたしなむなど、職員の温かい見守りと支援の中で利用者の楽しむ時間が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた基本理念をもとに、毎朝復唱し職員が共通意識を持ち、ケアに取り組んでいる。	入社時に理念の意義を説明し、職員は朝礼での唱和とともにケアの中で理念を意識して実践につなげている。年度の事業計画表に地域との関わりを明記し、運営推進会議の議題にあげて地域密着型サービスとしての方針を明確にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域交流は少ないが、町内の盆踊りに参加したり、施設で開催する行事(クリスマス会やひな祭り等)には保育園児等が来設され、踊りなどを披露していただき、地域との交流をする機会を作っている。	住民との交流では、町内会盆踊りや神社祭りに出かけたり、法人全体のお祭りには住民の参加を得て、ひよっこ踊りを一緒に観賞している。事業所のクリスマス会には保育園児が来訪し、園児から作品のプレゼントもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を設け、いつでも見学等できるようになっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族様等参加者の意見や他施設での取り組みなどの話し合いを行い、外出の機会を増やしたり、クリスマス会のメニューや余興を決めたりしている。	町内会や行政の担当者、家族、利用者の参加を得て事業所からの報告を中心に行い、事業計画や防災、外部評価、研修などのテーマで意見を交換している。家族の参加率が少ない状況もあり、議事録や会議資料を送っている。	会議案内に家族の関心があるテーマを記載し、参加が難しい場合には、テーマに沿って意見を引き出し、会議に反映できるような工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼や白老GH連絡会の研修などに参加し、協力関係を築くようになっている。	分からない時には福祉課に出かけ、おむつ支給などの制度的な確認や介護認定の代行申請を行っている。行政主催の研修に参加し、資料をもとに職員間で共有している。町の認知症高齢者SOSネットワーク事業に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、身体拘束に対して正しい知識を身につけるようになっている。	法人研修や外部研修で身体拘束について学び、拘束は行われていない。事業所内に身体拘束廃止委員会を設置し、3か月毎に職員間で確認する機会を設けている。身体拘束の具体的な禁止行為の内容を理解し、利用者の言動を抑制しない言葉遣いについても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、身体拘束に対して正しい知識を身につけるようになっている。		

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、家族から相談を受けた際に、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容の変更や改定があった際には、必ず説明し、署名捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、意見等反映するようにしている。	家族の来訪時には、介護計画の意向も聴いている。意見や連絡事項は個別の相談記録に記録しているが、今後は家族の些細な想いや職員の気付きも含めて共有できるように記録の工夫を考えている。毎月「和花便り」を発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	和花ミーティングを月1回実施し、意見交換を行っている。また、業務の中でも話をするようにしている。	ユニット毎に毎月会議を行い、業務改善、行事計画などの提案を受け入れながら意見を交換している。年に2回個人面談で管理者は職員の自己評価の達成度や課題などを話し合い、日々業務の中でも個別に聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や法人内の自己評価、キャリアパス研修の実施、資格取得による給料アップなどを行い、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修、外部研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白老GH連絡会に加入しており、研修などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、本人の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、家族の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認するとともに、関係機関からの情報提供も含め、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人にあった生活リズムが作れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡した際に、日常生活の様子を伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院への受診や近所のお店に買い物に行くようにしている。	近所に住んでいた友人や知人が来訪し、一緒に散歩する方もいる。家族と外食したり、職員同行で馴染みの美容室を利用している。1階のカラオケ室で歌い、麻雀や花札遊び、お酒を好むなど可能な限り継続できるように機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間などホールで一緒に過ごす時間を作り、交流できるようにしている。また、互いのユニットを行き来できるようにもしている。入居者様同士で麻雀や花札をする環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、該当者はいないが、該当者が出た際には、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの聞き取り。また、日常生活の言動から把握するようにしている。困難な場合は、カンファレンスを行い検討している。	ほぼ会話が可能で、好きな料理や望むことが実現できるように介護計画に反映させている。利用者の暮らし方や趣味・嗜好などをアセスメントシートに記載し、6か月毎に見直して情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りしている。また、日常生活の中で聞きえたことは記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの記録により把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを定期的実施し、その都度話し合い介護計画を作成している。	担当職員が3か月毎にモニタリングを行い、会議での評価をもとに6か月で更新計画を作成している。生活記録シートの短期目標の項目に沿って、主に実施内容を記載している。いつもと違う様子も記載し次の見直しにつなげたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実践を記入し、生活記録やアセスメントシートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や意向にあわせ、グループホームだけのサービスではなく、他部署と連携したりしサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療や娯楽に関する地域との連携はとれている。月1回絵手紙教室の先生に来設していただき、趣味を継続していける環境を整えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が遠いなどの理由からほとんどの方が協力医療機関へ変更されているが、主治医の変更等希望があれば対応するようにしている。	主に協力医療機関の町立病院を通院している。専門的な他科受診も含めて、状況に応じて家族や事業所が対応している。身体的な状況で通院が難しい場合などに訪問診療も可能になっている。	

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師が来設し、連携をとっている。また、状態に変化があった際などは、有料老人ホーム(花つむぎ)の看護職員や協力医療機関との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、管理者が付添い病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しており、本人の状態が変化した場合には都度家族と相談している。	利用開始時に重度化や看取り対応指針を文書で説明し、医療的な行為は難しい事の理解を得ている。看取りについて訪問診療の医師などの条件が整えば可能であるが、現在はその都度、主治医、家族と対応を話し合い入院方向になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルの設置。救命講習を受講するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。今後は近隣住民への参加も呼びかけ、協力体制を築いていく。	建物全体で消防署立会いの日中を想定した火災訓練を行い、夜の時間帯に地震からの災害を想定して自主訓練を実施している。地域住民の参加は得られていない。災害備蓄品類は整備している。	運営推進会議で災害時の住民との役割分担を話し合い、訓練に参加が得られるよう期待したい。また地震の想定で共用部分や各居室の危険箇所の確認と、各ケア場面での対応を職員間で話し合うことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応のため、プライバシーの確保はできている。また、トイレの声掛けなど他者に聞こえないよう配慮し対応している。	ユニット会議で不適切ケアがないか確認しており、高齢者に配慮して不適切な言葉の言い換えやイントネーションを変えるなど話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話の中や声掛けを行った際の表情や反応を見て、本人が何を望んでいるのかを把握できるようにしている。買い物に出かけた際には本人に選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や外出をしたいと言った希望があれば、個々のペースで生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に服装を一緒に決めたりしている。		

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものがあれば別メニューで提供。一人ひとりのできることを表にし、力を活かして食事の準備、片づけなどを行えるようにしている。	利用者と一緒に給食会議で確認し、誕生日はケーキの他に食べたいものを提供している。出前ランチ会や、握り寿司の実演、季節に応じたもので食事の変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には食事量を調整している。また、定期的に栄養士に献立表を確認してもらい栄養バランスの調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛け見守りを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録に排泄状況を記録し、個々にあった排泄介助をしている。	全員の生活記録シートに排尿、排便、水分摂取量を記録している。居室にトイレがあるため周りに気づかれないよう排泄用品の交換やトイレでの自主排泄を促している。スムーズな排便のため運動をとり入れたり、乳製品の提供をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や健康体操、機能訓練等を行ったり、乳製品の提供で対応している。必要時には主治医の指示にて下剤を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に入浴日は決めておらず、本人より希望があれば入浴できるようにしている。	循環型の天然温泉で毎日が入浴可能である。両ユニットで使っているため、週ごとに午前利用か午後利用としている。広い浴室なので仲のよい利用者同士で入る場合もある。脱衣場も広く暖かい、清潔な浴室である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決められた消灯時間ではなく、個々にあった時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに入れており、いつでも確認できるようにしている。薬の変更等あればその都度周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好を活かし、カラオケ、お酒などを楽しめるようにしている。		

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行きたい、外食したいなどの希望があれば、外出できるよう対応している。地域の方々の協力の下、定期的に集会に参加している方もいる。	屋外に庭や池があり散歩に適している。近隣の商店へ買い物に行ったり、近くの幼稚園や公園へ散歩に出かけている。車で紅葉時期の登別やポロコタン、幼稚園の運動会や町内の盆踊りに出かけている。2階の屋上庭園でも日光浴や外気浴ができ、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族より希望があれば、できるだけ本人で管理していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルーム内の電話はいつでも使用できるようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は全面バリアフリーになっており、浴室、居間には手すりを設置している。毎日、温度、湿度をチェックし、調節している。季節ごとにクリスマスツリーや鏡餅を置き、季節感を取り入れるようにしている。	明るく清潔な広いリビングには壁に季節の飾りやカレンダー、日めくりやホーム便り、行事の写真が貼ってある。食事のテーブルも余裕があり、職員と一緒に話をしながら昼食をとっている。テレビ前にソファがあり、自由に腰掛けくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に行き来できるので、ラウンジで過ごしたい方、一人で過ごしたい方等個々の思いで過ごせる環境にある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地の良い空間を作る工夫をしている。	ベランダからの眺めのよい居室は10畳弱の広さがあり、トイレと洗面台が備え付けられている。使い慣れたタンスや飾り物を置いてある。家族の写真、カレンダー、作品や時計がある。自分の家と同じように落ち着いて暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面バリアフリー。居間、トイレ、浴室には手すりを設置している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0193600376号		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム和花 Bユニット		
所在地	北海道白老郡白老町東町2丁目4番12号		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年8月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600376-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴や買い物、外食など様々な希望に対して速やかに対応し、利用者様一人ひとりがご自分のペースで生活ができるように取り組んでいる。また、趣味や経験を活かした生活ができるよう、絵手紙教室の先生に毎月来設していただいたりしている。すべての居室にトイレが設置されており、夜間帯のトイレ通いがスムーズに行えるようになっている。居室にトイレがあることで安心感が生まれ安眠できる効果もある。高齢者複合施設となっており、1階には機能訓練室があり、充実した機能訓練を行えるようになっている。また、毎週専門職による音楽療法や体操も実施しており、認知機能、身体機能の低下予防に対する取り組みも充実している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年7月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた基本理念をもとに、毎朝復唱し職員が共通意識を持ち、ケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域交流は少ないが、町内の盆踊りに参加したり、施設で開催する行事(クリスマス会やひな祭り等)には保育園児等が来設され、踊りなどを披露していただき、地域との交流をする機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を設け、いつでも見学等できるようになっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族様等参加者の意見や他施設での取り組みなどの話し合いを行い、外出の機会を増やしたり、クリスマス会のメニューや余興を決めたりしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼や白老GH連絡会の研修などに参加し、協力関係を築くようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、身体拘束に対して正しい知識を身につけるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、身体拘束に対して正しい知識を身につけるようにしている。		

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、家族から相談を受けた際に、支援できるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容の変更や改定があった際には、必ず説明し、署名捺印をもらっている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、意見等反映するようにしている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	和花ミーティングを月1回実施し、意見交換を行っている。また、業務の中でも話をするようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や法人内の自己評価、キャリアパス研修の実施、資格取得による給料アップなどを行い、向上心を持って働けるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修、外部研修などに参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白老GH連絡会に加入しており、研修などに参加している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、本人の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、家族の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認するとともに、関係機関からの情報提供も含め、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人にあった生活リズムが作れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡した際に、日常生活の様子を伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院への受診や近所のお店に買い物に行くようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間などホールで一緒に過ごす時間を作り、交流できるようにしている。また、互いのユニットを行き来できるようにもしている。入居者様同士で麻雀や花札をする環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、該当者はいないが、該当者が出た際には、相談支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの聞き取り。また、日常生活の言動から把握するようにしている。困難な場合は、カンファレンスを行い検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りしている。また、日常生活の中で聞きえたことは記録している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの記録により把握するようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメントを定期的実施し、その都度話し合い介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実践を記入し、生活記録やアセスメントシートを活用し情報の共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や意向にあわせ、グループホームだけのサービスではなく、他部署と連携したりサービスの多機能化に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療や娯楽に関する地域との連携はとれている。月1回絵手紙教室の先生に来設していただき、趣味を継続していける環境を整えている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が遠いなどの理由からほとんどの方が協力医療機関へ変更されているが、主治医の変更等希望があれば対応するようにしている。			

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師が来設し、連携をとっている。また、状態に変化があった際などは、有料老人ホーム(花つむぎ)の看護職員や協力医療機関との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、管理者が付添い病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しており、本人の状態が変化した場合には都度家族と相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルの設置。救命講習を受講するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。今後は近隣住民への参加も呼びかけ、協力体制を築いていく。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応のため、プライバシーの確保はできている。また、トイレの声掛けなど他者に聞こえないよう配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話の中や声掛けを行った際の表情や反応を見て、本人が何を望んでいるのかを把握するようにしている。買い物に出かけた際には本人に選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や外出をしたいと言った希望があれば、個々のペースで生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に服装を一緒に決めたりしている。		

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、入居者と給食会議を開催し、希望のメニューを取り入れている。嫌いなものがあれば別メニューで提供。一人ひとりのできることを表にし、力を活かして食事の準備、片づけなどを行えるようにしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には食事量を調整している。また、定期的に栄養士に献立表を確認してもらい栄養バランスの調整を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛け見守りを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録に排泄状況を記録し、個々にあった排泄介助をしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や健康体操、機能訓練等を行ったり、乳製品の提供で対応している。必要時には主治医の指示にて下剤を服用している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に入浴日は決めておらず、本人より希望があれば入浴できるようにしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決められた消灯時間ではなく、個々にあった時間に休んでいただくようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに入れており、いつでも確認できるようにしている。薬の変更等あればその都度周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好を活かし、カラオケ、お酒などを楽しめるようにしている。			

グループホーム 和花

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行きたい、外食したいなどの希望があれば、外出できるよう対応している。地域の方々の協力の下、定期的に集会に参加している方もいる。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に支払いをしていただくよう支援している。本人、家族より希望があれば、できるだけ本人で管理していただくようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルーム内の電話はいつでも使用できるようになっている。また、自室に電話を設置し使用することもできるようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は全面バリアフリーになっており、浴室、居間には手すりを設置している。毎日、温度、湿度をチェックし、調節している。季節ごとにクリスマスツリーや鏡餅を置き、季節感を取り入れるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に行き来できるので、ラウンジで過ごしたい方、一人で過ごしたい方等個々の思いで過ごせる環境にある。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地の良い空間を作る工夫をしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面バリアフリー。居間、トイレ、浴室には手すりを設置している。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム 和花

作成日：平成 30年 7月 25日

市町村受理日：平成 30年 8月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の内容が報告重視になっており、家族の参加も少ない状況。参加される方が少ないため、ご家族の意見などもあまり聞けていない。	ご家族様が参加したいと思える運営推進会議を開催するとともに、なかなか参加ができないご家族様のご意見も反映できるようにし、ご家族様と一緒によりよいグループホームを作っていけるようにする。	・会議毎にテーマを決め、ご家族様に事前にお知らせする。 ・会議に参加することが難しいご家族様に対しては、面会時などに意見を聞くようにし、意見を反映できるようにしていく。 ・テーマ以外にもご家族様からの意見を議題に上げるようにし、運営推進会議の重要性を高めていく。	6か月
2	35	災害避難訓練は定期的に行っているが、地域住民の参加ができていない。	地域との協力体制を築き、災害対策を強化する。	・町内会長、近隣住民に協力を依頼し、災害避難訓練に参加していただけるようにする。 ・町内の方たちを含めた緊急連絡網の作成。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。